

会議録

会議の名称	平成23年度 第1回環境審議会
開催日時	平成23年7月29日（金曜日） 14時00分から16時00分まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室2
出席者	委員：赤司委員、勝村委員、清水英範委員、田辺委員、齋藤委員、豊永委員、大森委員、佐々木委員、御所窪委員 事務局：金谷みどり環境部長、小関環境保全課長、田中環境計画係長、佐藤（理）主事、佐藤（奈）主事
議題	1 開会 2 議題 （1）本年度の審議会について ア 平成22年度答申について確認 イ 本年度の審議内容及び日程について ウ （仮称）環境保全推進協議会について （2）その他 3 閉会
会議資料の名称	資料No.1 西東京市環境審議会委員・事務局職員名簿 資料No.2 平成22年度環境審議会答申書 環境保全推進のための組織体制図 資料No.3 平成23年度環境審議会日程等 資料No.4 平成22年度環境関連事業実績 資料No.5 板橋区資料
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>・本日は教育指導課長清水一臣委員が都合により欠席。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）本年度の審議会について</p> <p>○事務局： 配布資料を説明。 平成23年4月1日付の人事異動に伴い今年度より関係行政機関の環境審議会委員が前島委員から清水一臣委員に変更。 （仮称）環境保全推進協議会と（仮称）環境情報・学習ネットワークの具体的な組織作りについて確認したい。</p> <p>○会長：</p>	

まず頭の部分となる（仮称）環境保全推進協議会について議論したい。

○大森委員：

頭の部分をよく整理し、抽象的な議論をするのではなく、具体的にどう実行していくかを議論したい。

○佐々木委員：

（仮称）環境保全推進協議会はいつから実際に動き出すイメージなのか。

○事務局：

来年度から動き出せるように、出来るだけ早めに協議会を立ち上げたい。

○清水英範委員：

資料3では2月の最終確認までしか書いてないが、それ以降の、第一回環境保全推進協議会までの流れはどうなっているのか。

最終確認が2月では遅いのではないか。

○事務局：

協議会は今年度中に設立したい。平成24年4月から運用ができればと思っている。

2月以降の一か月弱の期間で出来るかは現在検討中だが、24年度中の早期に第一回環境保全推進協議会を開催したい。

○大森委員：

環境基本計画（後期計画）のスケジュールからすれば、平成21年から23年の3年間で立ち上げ、24年から実施に移していくというのが理想的だが、予算等の関係もあるだろうから、人選等は1月頃から始め、4月から具体的に検討したい。

環境情報・学習ネットワークも予算に囚われては時間がもったいないので実施の検討を早めに行いたい。

○事務局：

11月くらいまでに決まれば来年度予算化が検討できる。

○大森委員：

来年度の予算に絡むところを優先的に話し合うべきである。

○佐々木委員：

事務局から組織化の具体案を10月くらいまでに出して欲しい。

○事務局：

原案はすぐに出せるので、事務局案に先立ってご意見を伺いたい。

○大森委員：

昨年度十分話し合ったのだから、事務局にまずそれを踏まえて具体的な意見を出して

ほしい。

○斉藤委員：

このスケジュールでは遅いので今年度ではなく今年中に最終確認が出来るようなスケジュールに。

地球温暖化対策推進計画のように具体的な数値目標を立てたほうが良い。

○田辺委員：

環境保全推進協議会の構成メンバーは答申文に盛り込まれていたもので、ある程度具体的にしてみてもいい。

○清水英範委員：

平成24年4月から始めるつもりなら半年前からメンバーを募集し始めるくらいでないと。

○御所窪委員：

震災以来新宿区では省エネナビ100台がキャンセル待ちの状態である。緑のカーテンにも去年より100名以上多い800名くらいの区民が参加した。区民の関心はとても高くなっている。これを機会に一気に盛り上げていきたい。

○大森委員：

11月までの3回の環境審議会ですべて終われば予算要求に間に合う。

○会長：

事務局は次回までに原案を。それについての注文は。

○佐々木委員：

平成24年4月1日に発足を目指すのであれば、スケジュールをもっと明確に。審議会はそれに合わせて開けばいい。

○会長：

9月にもう一度審議会を開きたい。

○田辺委員：

今日、時間に余裕があるのならば、環境情報・学習ネットワークについて今提案を出してみてもいい。

○大森委員：

予算はともかく、どういう人選をするか。行政はある程度決まっていると思うが、民間の環境団体は幅広く存在するので、西東京市全体を網羅できるようにしたい。

○事務局：

大震災の後、環境問題に対する取り組みは変わってきている。何を重点にするのか再

検討する必要もある。

○大森委員：

平成26年度からの環境基本計画を作るのが24年度くらいから始めるのであれば、それと結び付けて作っていくのも良いのではないか。

○事務局：

環境保全推進協議会と環境審議会との線引きが明確にできるかが課題である。

板橋区や新宿区のように一つの施設を拠点として環境保全推進協議会が機能していくように考えることが重要である。

ネットワークは行政側が作って失敗した例は多い。新宿区のように市民が自発的にネットワークを作っていくのが望ましい。そのためにどのように働きかけていけばよいのかも考えていきたい。

○御所窪委員：

新宿区のように市民・行政・事業者が協力していける例は珍しいと言われるが、西東京市でも市民が皆で協力してやっていくことはできると思う。

○大森委員：

民間の環境団体の実態を見ると、それぞれの団体はかなりの活動をしている。それを全体でまとめてお互いに連携がとれるようにしたい。そのためには行政は中に入るのではなく、側面から支持する。

○事務局：

民間団体は何か目的があれば集まりやすいが、イベントが終わるとバラバラになりやすい。イベント終了後もネットワークを持続できるようにするにはどうすれば良いか考えていきたい。

○大森委員：

行政のバックアップが必要である。

エコプラザを拠点とするのは良いが、場所が良くないのでここだけでやるのは無理があると思う。

3 閉会

○会長：

本日の審議会は以上で終了します。

以上